

南宮の里



ホームページ



↑ Facebook も随時更新中！

No.5



文責：川上量広（教頭）

学び合いの推進に向けて ～ 11月は学び合い月間～

学校教育目標「学び合い、磨き合い、支え合い、共に高め合う生徒の育成」を具現化するために、授業改善テーマ「自ら問いをもち、仲間とともに解を導き出す 授業はどうあったらよいか」～信州型 UD を基盤にした授業の充実を通して～」を設定し、授業研究を進めてきています。

新型コロナが5類に引き下げられ、さらなる学力向上を図る目的で「学び合い」にも目を向けるべく、10月4日(水)には「学び合いのある授業への取り組み」をテーマに職員研修を行いました。職員自身が4人グループで課題に取り組む、やってみての感想や疑問等を共有する、実際の学び合いの授業から学ぶ、教科ごとに今後の取り組みを考える、といった研修を行いました。

10月6日(金)には、校長講話で生徒にも「学び合い」を推進していく旨を伝えました。

10月6日(金) 校長講話

学び合い ～絶対にゆずれない“幸せ”って何だろう？～

全校の皆さん、おはようございます。

先週は素晴らしい学校祭が行われました。テーマ「起龍回生～再び蘇る伝説」にあるように、全校一丸となって活気とまとまりある蒼龍祭を復活させてくれました。ありがとうございました。

さて、本日の校長講話はいつもと形を変えて行います。校長先生は3年1組の皆さんと音楽室にいます。この後、各学級でも4人グループで学び合いを行うのでよろしくお願いします。

先週、こんなテーマで3年1組にアンケートを取りました。

『あなたの考える“幸せ”って何ですか？』ここは相談しなくていいので、

皆さんも1分ほど心の中で考えてみてください。

どんなことが思い浮かびましたか？ 3年1組で出されたものを紹介します。

担任の渡辺先生は「笑えること、寿司を食べたとき」…確かに笑っているときは心が明るくなるし、私もお寿司を目の前になると幸せな気分になります。

ここに「テキストマイニング」があります。3年1組の皆さんが答えてくれたものの中で、多かったキーワードほど大きく映し出されています。

- ・“食べる…おいしいご飯を食べる、好きな物を食べる”
- ・“推す…推し(応援している人)を見ているとき、会えるとき”
- ・“友達…友達と話したり、笑いあったりするとき”

などが多くありました。きっと、自分と同じだと思った人も多いかもかもしれませんね。



それではここから学び合いを始めます。

テーマは『絶対にゆずれない“幸せ”って何だろう?』です。「学び合い」は「話し合い」ではないので、グループで一つの答えを決める必要はありません。友達の意見を聞きながら、自分なりの考えが見つかるといいですね。

時間は10分間です。各グループに先ほどのテキストマイニングを配るので、考える際の参考にしても、しなくてもOKです。始めてください。

活動をやめてください。『絶対にゆずれない“幸せ”って何だろう?』…この問いに対し、今はどんな考えを持っていますか?(2名ほど発表してもらう)

今日は4人グループで学び合いをしました。皆さんの教室では、このスタイルで学習している教科もあることでしょう。南宮中ではこの学び合いをもっともっと進めるために11月を「学び合い月間」として、全クラス全教科で4人グループの学習を進めます。

一番のねらいは、先生に教えてもらう授業から、自分たちで学びを進める授業への転換です。わからないことがあったとき、先生に教えてもらう授業は聞けないとそのままになってしまいます。学び合いでは「これってどういうこと?」とグループの友達に聞くことでヒントをもらったり、教えてもらったりすることができます。わからなかった人はわかるようになり、教える方も説明することで更に理解を深めることができます。学び合いは学習をすぐにあきらめてしまう人に、追究する粘り強さが出てくるのです。

友達と協力してあれだけ素晴らしい蒼龍祭を作り上げられる南宮中生。今度は日々の授業においても、学び合いを通して友達と協力し、自分たちで学びを進める学習を作り上げていきましょう。

学び合いを進めていく上での心がまえも共通理解を図り、今まで以上に学び合いの授業スタイルが増えてきています。

11月は「学び合い月間」と銘打ち、学び合いをどの学級・教科でも取り組んでいきます。

11月7日(火)の授業参観日は、教科授業が1学年のみとなりますが、学び合いの様子もご覧いただきたいと思えます。

授業の心がまえ



- 1 話をしっかり聴こう
- 2 友だちの発言を大切にしよう
- 3 自分からたずねよう
「これってどういうこと?」「なんで?」
- 4 グループで考えよう
(勝手に席から離れない)

非違行為防止研修から

9月27日(水)に、職員による非違行為防止研修を行いました。非違行為の事例を資料として、「なぜこのようなことが起きたのだろう」をテーマにグループディスカッションを行い、「被処分者はどうしてこのようなことをしたのだろう」「同僚としてどんなことをしたら防げたのだろう」についてディスカッションしました。全職員で「南宮中から絶対に非違行為は出さない、出してはならない。」という強い決意をもつことが歯止めの第一歩となることを再認識しました。

【職員の感想より】

- 「自分は大丈夫」と思うのではなく、「自分の感覚が違っているのかもしれない」と思いながら非違行為を絶対しないよう考えながら生活することが大切だと思いました。自分だけではなく、同僚の感覚も大切に仕事をしていきたいです。同僚を見て、「この行動は・・・?」と思うことがあれば、まず話しやすい先生に相談することからしていきたいです。
- 「学校教員の社会は小さい」といつも言われている中、コロナ、多忙感などがさらに重なり、教員自体の他者とのコミュニケーション力が落ちているかもしれないと改めて感じました。ちょっとした事、なんでもないような事、忙しい中でもいろいろな先生とコミュニケーションをとっていききたいと思いました。(もちろん子どもたちとも)